

西洋占星術ちょ～入門

萌えない

占星術

も

え

ま

せ

ん

前書き

今時、書店に行けば西洋占星術の入門書など、何冊も手に入ります。少なからぬ人がそれらを購入して、勉強を始め始めるわけですが、大抵の場合、自分や知り合いなど何人かのホロスコープを作ってみたあたりで力尽きてしまいます。この種の本には、「金星が 座の人は...」「太陽と土星のスクエアの意味は...」といった説明が、時として百ページ以上にもわたって延々と記載されていて、多くの方はこれを大真面目に覚えようとした挙句、「西洋占星術は難しい」といって投げ出してしまふわけです。

西洋占星術には一貫した物事の考え方というのがあって、それらは数少ない原理の組み合わせから成り立ちます。ゆえに暗記すべきことはそれほど多くなく、むしろその背景を知っておくことの方がはるかに重要だと考えます。しかし、そのニーズを満たすような本は案外、市販されていません。

この本は「星占い」に興味を持つ人が、「次の一歩」に進むために学ぶべきポイントをコンパクトにまとめたものです。最低限必要と思われる応用例も示していますので、「占星術で具体的に何ができるのか」という点に興味がある人にも役立つかもしれません。ただし入門書を一読すればわかる部分については軽くしか触れていませんし、いちいち用語解説も行なっていません。実際に目を通した上で、見えそうな「参考文献」「参考 URL」を巻末に紹介していますので、わからない所は自分で勉強してください。AstroLogia 等のフリーウェアを使用すれば、解説例のホロスコープも容易に再現できるはずで

本書のチャート解釈例には、クライアントのプライバシーに配慮するために実在人物ではなく、漫画・アニメ・ゲームに登場する二次元キャラクターを用いました。出生データは「マイシスター検索システム」収録のものを使用し、必要に応じて出生時間を推定しています（出生地の記載がないものは東京を想定）。またチャートの作成には「Astrolog」ver.5.40 を使用しました。

目次

前書き	1
「占星術は『統計の占い』か？」	2
「偶然なんかなかったんだ」	3
「『1999年7の月』って一体？」	4
「黄色い砂漠のアラビア生まれ」	5
「『古典』vs『現代』」	6
「ホロスコープの四要素」	7
「星占いは信用できない？」	7
「サインとハウス」	9
「惑星とアスペクト」	10
「ディグニティとディポジスター」	11
「心理タイプの簡単な見分け方」	12
「ホロスコープと心の関係」	13
「ホロスコープのどこを読むか」	14
「人生の転機も予想できる？」	15
「イベント発生時のチャート例」	16
「ソーラーリターンで年運を読む」	17
「双子は同じ人生を歩むのか？」	18
「～男心に男が惚れて～」	19
「男女の相性を読む」	20
「二人の仲はいつ破綻するか」	21
参考文献・参考 URL・付表	22

「占星術は『統計の占い』か？」

西洋占星術を「統計の占い」と書いている本やサイトをときどき目にします。もしこれが正しいとするならば、これらの占いは、過去の幾多とも知れない人の運命を調査して、その結果から星と人の運命の間に成立する一般的な規則を導き出したものということになります。こういう手法を「帰納的推論」といいますが、残念ながら、占星術はそういう手法で作られたものではありません。イデア的な論理体系が先にあって、その法則性をもとに演繹的に種々の現象を説明しようとするものなのです。

世の中のほとんどの占いは演繹的推論によるものですが、その数少ない例外が「血液型占い」です。大村「血液型と性格」によると、ABO 血液型が発見されたのは1901-2年で、日本で始めて血液型と性格の関係性が指摘されたのが1919年7月。1925年7月と1927年4月に陸軍将校の血液型と階級・懲罰・性格等の関係を調査した論文が発表され、ついで登場した古川竹二が種々の調査を元に「血液型と気質」を刊行（1932年7月）。現在の血液型占いの元祖といえる、能見正比古「血液型人間学」は古川説とほぼ同一のものです。ところが、彼らが元としている調査結果を統計学的に検定してみると、標本の取り方が悪かったとか、血液型と性格の間に差があるように見えたのは、ただの偶然だったという事実が続々と判明。その後の心理学実験によっても、帰納的推論の結果得られたはずの法則は完膚なきまでに否定されています。

占星術のような演繹的な体系ではどうでしょうか。古典占星術のベースとなる理論

の一つに「世の中の全てのものは温 - 冷、湿 - 乾の組み合わせと、その関係性によって説明できる」といったものがあります。オリジナルは Empedocles (BC493-433 頃) の四大元素論ですが、こういう原則、それ自身は先験的に成立することが前提とされています。こういう現象の解釈の枠組みに対しては観察による客観的検証が不可能で、「神学理論」も同じ構造を持っています。Karl Raimund Popper (1902-94) によると、科学とは「反証可能性を備えつつ、未だ反証されていない仮説」と定式化できませんが、この種の占いには反証可能性がないために、「科学」とは呼べません。

とはいえ、別にこれは占い師が実占に用いる理論の予想力の程度を、観測事実との整合性によって検証できないということではありません。一番、有名な実践例が Françoise Gauquelin によって行なわれた、一連の統計学的な研究で、詳細は彼の "*Psychology of the planet*" や Eysenck & Nias "*Astrology: Science or superstition?*"、伊勢田「擬似科学と科学の哲学」を参考にしてください。結論だけ書くと、一部のプロに関しては、星の配置と業績の間にとっても偶然とは思えないような相関が観察されています。ただし、標本数を大きく取るほど、有意差の検出力は高まるために、得られた有意水準が高いからといって、その効果が大きいとは言えません。Grant Edwards のサイト "*Studies on Astrology*" には種々の統計的研究報告が紹介されていますが、多くのケース、特に性格と星の配置の間に、明確かつ再現性のある関係は見出されておらず、自殺・離婚についても、星の影響はないみたいです。

「偶然なんてなかったんだ」

世の中の占いは「命・ト・相」の3種類に区分できます。「命」とは「四柱推命」や（ホラリー以外の）「西洋占星術」など、一定のルールを元に運命の流れを読もうとするもの。「ト」の代表は「易」と「タロット」で、偶発的に現れた記号の組み合わせから事態の状況と推移を推測するもの。「相」とは「手相」「顔相」のように、特定の物質的徴候から運勢を占うものです。元来、これら全ての占いのベースには「世界は神によって書かれた、壮大な記号の体系である」という信念が存在し、占いの技法は、その隠された記号の意味を読み解くための技術として位置づけられていました。

占いというのは元々、社会を安定に維持するため、自然界から吉兆や凶兆（オーメン）を読み取ろうとする営みで、古代バビロニアの時代にして、すでに天上（日食・流星など）と地上（地震など）のオーメンを纏めた石版が作られています。やがて人間は、向こうから予兆がやってくるのをただ待つだけではなく、積極的に神意を知るための方法を発明します。古代中国の「亀ト」や古代メソポタミアの「臍物占い」がその良い例です。こういう天上のオーメンを一定の呪術的なプロセスを経た物体の上に「記号」として映し出そうとする試みを「徴物占い」と呼びます。「相」系統の占いのルーツはこの辺にあり、これがやがて更なる発展を遂げることになります。亀甲や骨に入った特定の形の亀裂が未来を示す記号だったとしても、それと寸部違わぬ形が再現されることはまずない。そういう時は神官たちが前例を参考にして「まあこんな

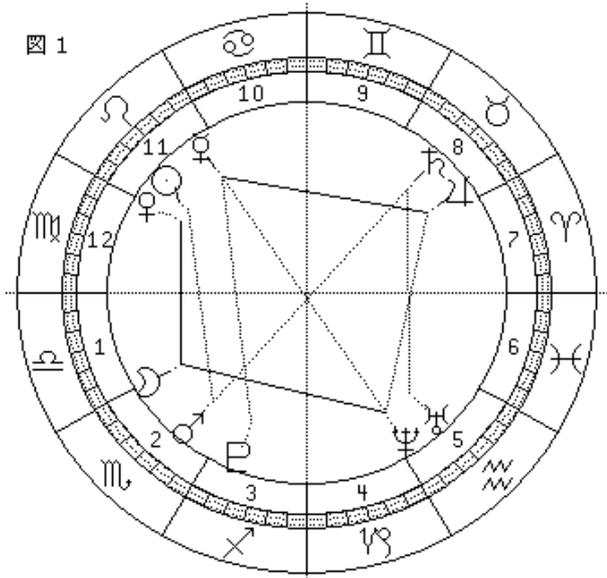
所か」と解釈を行なっていたわけです。こういう、特殊な相の中から普遍的なものを探そうとする方法は、原理的に出現可能なパターンが無限なために、常に解釈の恣意性が問題になりえます。そこで考え出されたのが、「先に世界の構成要素を決定し、その関係から現象を説明する」というアイデアです。占星術であれば、サインや天体等を一定の意味を持つ記号として扱い、その論理的な関係性から世界で生起する現象を演繹的に解釈しようとするわけです。人はこういう「閉じた記号体系」と同時に、「世界（人生）は特定の原理から説明できる」と言い換えれば「世の中に偶然はなく、全て必然的だ」とする信念をも手にしたわけです。なぜそういう信念を持つ必要性があったかと言えば、人が本質的に無限に開かれた偶発的な世界を恐れたからです。いつ外部から災厄がやってくるかわからない世界だからこそ、厄難を予知したいわけです。こういう「理性によって世界を因果的に捉えようとする」思想は自然科学を生み出し、人は自然の支配から自由になったように見えます。しかし、世の中にはいまだ偶発的な不幸は存在し、その被害者が発する「なぜ他人でなく、この私が」という問いに、科学理論は答えを与えることはできません。問題の「原因」を客観的に分析することや、確率論的な発生頻度は計算することは可能であっても、それらは「私の」主観的経験を説明するものではないからです。占いは、科学がカバーできない「私にとっての」世界のありかたを因果的にとらえようとする試みであり、それは理性の本質でもある、その能力の限界を超えた推論志向の発現とも解釈できます。

「『1999年7の月』って一体？」

今ではそんなものすらなかった事にされているみたいですが、1999年に世界は滅びる予定でした。日本でそんな胡散臭い話が広まるきっかけとなったのが、五島勉「ノストラダムスの大予言1」(1973年、祥伝社)で、この本は250万部も売れたと言われています。比較のために書いておけば、2002年発売のJ.K. Rowling「ハリー・ポッター(第4巻)炎のゴブレット」日本語初版の売り上げ数が230万部、国内小説売り上げ最高数は片山恭一の「世界の中心で、愛をさけぶ」(306万部)、新書が養老孟司「バカの壁」(353万部)です(2004年5月30日時点)。

Nostradamus「百詩集」第10巻72編には「1999の年7の月、空から恐怖の大王が降ってくる。アンゴルモアの大王を復活させるためにその前後の期間、マルスは幸福の名のもとに支配に乗り出すだろう」と書いています。この年の8月11日には日食が起こり、その直後のホロスコープにはたしかに「グランドクロス」が形成されています。1999年8月17日午前9時のマンデンチャート(図1)を見ると、10天体のうち9個までが4つのサインに入っています。これら「牡牛」「獅子」「蠍」「水瓶」のサインは、隣同士が90度の角度をなすために、十字形になるわけです。このような組み合わせは、他に「牡羊」と「双子」から始まるものもありえるわけですが、不思議なことに、このときに起こったグランドクロスは、全て新約聖書「ヨハネの黙示録」第4章7節に出てくる4つの生き物に対応した

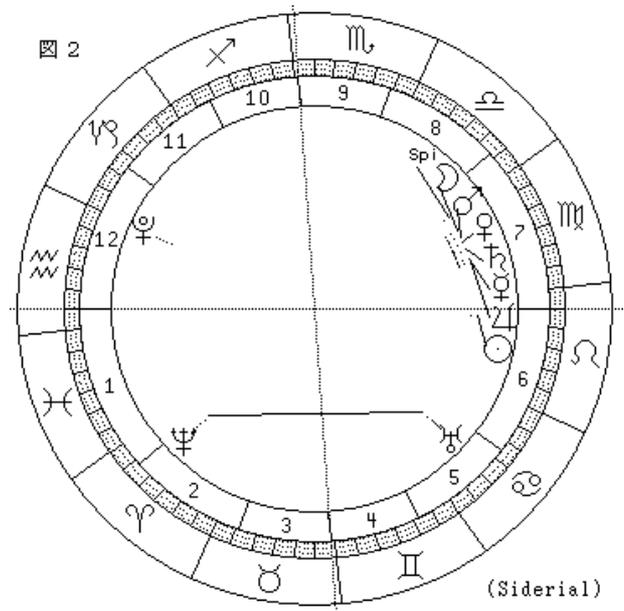
図1



サインが関係しています。「獅子・牡牛」は説明不要でしょう。「人の顔のようなもの」は水瓶座を意味し、鷲はさそりの化身と考えられていたことから蠍座は「飛ぶ鷲のようなもの」に対応します。

2000年5月17日には7惑星の直列が起りましたが、太陽と同じ方向(牡牛座)のために見えませんでした。次の惑星直列は2040年9月9日で、この時は日没直後(午後6時)に、残りの全ての惑星がスピカ(乙女座)の近くに見えるはずですが(図2)。

図2



「黄色い砂漠のアラビア生まれ」

チグリス・ユーフラテス川流域では紀元前 40-30 世紀から洪水を予想する目的で、天文観測が行なわれていました。バビロニア王朝時代（紀元前 25 世紀）になると、これは宗教・権力支配と結びついた形の「占い」と化し、新バビロニア王朝時代以降、「カルデア人の科学」としてギリシャ・ローマの地中海世界に広まりました。ペルシャ帝政時代までの占星術は王族が治世のため、天変地異などを予言する目的で用いられていましたが、ギリシャ世界に入るとヘレニズム文化と融合が起こり、個人の運命を占う目的で使われるようになりました。

「12 星座」の起源として最も古い資料は、S. Sachs が研究を行なった粘土板文書です [J. Cuneiform Studies, VI(2), (1952)]。これには 6 惑星が入っているサインが書いており、その位置関係から計算すると紀元前 409 年 4 月 29 日という結果が出てきます。ただし、当時は実際に見える星空の星座と惑星の位置から占いを行っており、現在のように春分点を基点としたシステムが使われるようになったのは紀元前 90 年ごろからだと推定されています。占星術はその後、数世紀間ローマ世界で流行し、BC10 頃に最古の占星術文献 "Astronomic" (Manilius) が、ローマ帝国最盛期（2 世紀）の五賢帝時代には "Tetrabiblos" (Ptolemy) が、それぞれ書かれています。

284 年の後期帝政時代以降、ローマ帝国は衰退をはじめ、395 年に東西の分裂が起こります。アレキサンドロス大王の遠征（紀元前 3 世紀）以来、東ヨーロッパ世界にもギリシャ文化が広がっていたわけですが、

この地域の大部分は 7 世紀にイスラム世界に吸収されてしまいます。それに伴い、バクダードの「知恵の館」(Bayt al-Hikma) で旧ローマ帝国のギリシャ語文献がアラビア語に翻訳され、研究が進められます。一方、Abu Ma'shar「大序説」や Alverney「インド誌」によると、3 世紀ごろにギリシャからインドに占星術が伝えられ、インド独自の宇宙論と結びついたものがアラビアに流入しています。つまり、アラビアに占星術が伝わったルートは複数あるわけです。

中世西ヨーロッパ世界の大半はキリスト教一色に染まり、旧ローマ帝国オリジナルの占星術は滅びていました。しかし 11 世紀に、イベリア半島の国土回復運動を通じてアラビア語文献がラテン語に翻訳される形で、占星術が逆輸入されました。

十字軍期（12-13 世紀）、貨幣経済の浸透と商業活動の復活に伴って王権の伸長が生じ、教皇権をしのぐようになります。これは後の絶対王政の基盤となり、文化的にはキリスト教絶対主義の否定に繋がりました。14 世紀、イタリアで「古典に帰れ！」を標榜するルネサンス運動が始まり、宗教改革（15 世紀）とともに西ヨーロッパ世界全土に広がりを見せます。3 世紀に流行した「新プラトン主義（神秘哲学）」も復興し、16 世紀初頭、イタリアでは宮廷占星術が最盛を迎えています。フランスでは「1999 年 7 の月」で有名な Nostradamus（1503-66）が登場。そして 17 世紀に入るとイギリスで William Lilly（1602-81）が活躍を始めます。彼は "Merlinus Anglicus Junior"（1644-1681）という天文暦や、"Christian Astrology"（1647）という多くの文献を網羅した占星術の入門書を書いています。

『古典』 vs 『現代』

現在、西洋占星術の世界には「心理占星術」(Psychological astrology)と「古典占星術」(Traditional Astrology)の二大潮流が存在します。いずれもホロスコープから結果を導き出す点は共通していますが、その解釈の方法がかなり異なります。心理占星術ではホロスコープから読みとれる結果を「クライアントの心理的体験」として理解するのに対し、古典ではそれを「端的な事実」と解釈します。そのどちらが正しいかということを決定できるメタな原理は存在しないため、どの立場に立つかというのは占い師のイデオロギー的な問題です。

古典占星術は16-17世紀にかけて西ヨーロッパ世界で「再発見」された、旧ローマ世界由来の占星術です。William Lillyの*"Christian Astrology"*が基本文献とされているようですが、欧米ではアラビア語やギリシャ語の文献にまで遡った調査研究が現在進行中です。古典占星術は1980年代まで、それほどメジャーでもなかったのですが、1990年にOlivia Barclayが*"Horary Astrology Rediscovered"*を刊行するや、一大ブームになりました。

古典占星術の一つのテクニックに「ホラリー」というものがあり、これはクライアントの出生時間ではなく、占い師が質問の内容を理解した瞬間のチャートから占いを行なうものです。具体的には質問者(Querent)を示す惑星と、質問内容(Quesited)に対応するハウスの支配星を決定し、その位置関係や品位(dignity)などから結果を導き出します。詳しい手法について興味がある人は、Anthony Louisの

"Horary Astrology Plain & Simple" [Llewellyn, (1998)]などを参考にしてください。

現代占星術の起源はAlan Leo (William Frederick Allen: 1860-1917)にまで遡ります。「産業革命」の時代である18世紀に入ると、占星術は「非科学的」ということで歴史の片隅に追いやられてしまいました。Sepharial (Walter Gorn Old: 1864 - 1929)によって神智学協会に導かれたLeoは1895年に*"Modern Astrology"*を創刊、約20年間に7冊の主著と惑星別の本を記しました。現在、彼は「現代占星術の祖」と呼ばれていますが、古典占星術家からは、彼の体系化した占星術理論は批判の対象とされています。その理由の一つは、彼が占星術を「未来の予言」ではなく「性格の傾向を示す」ものとする解釈を打ち出したためです。なぜそういうことを言う必要があったかと言うと、イギリスに1988年まで「未来を予言できると詐称すること」が禁じる「魔女法」というものが存在したためです。彼は1914年、この罪に問われ、1917年に罰金25ポンド(現在価格で約30万円)を支払っています。Leoのアイデアが1970年代以降、Noel Tyl, Howard Sasportas, Liz Greeneらによって心理学や精神分析学と結びつけられたことで「心理占星術」が成立しました。

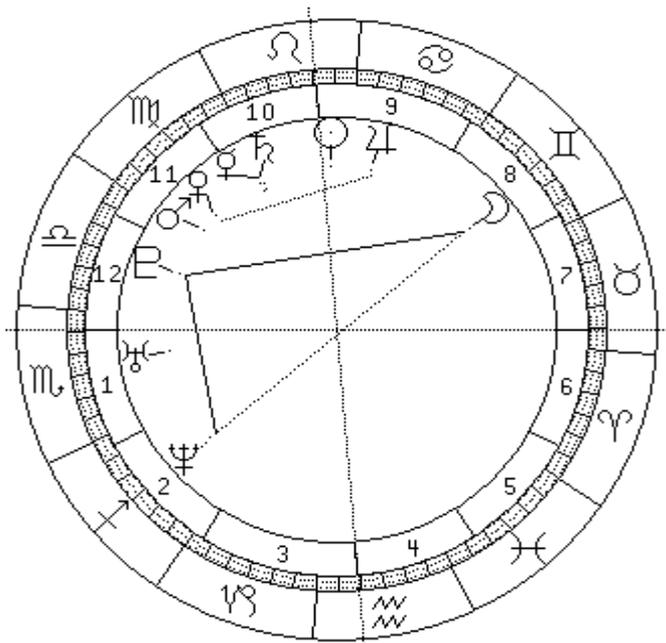
一方、この時代の欧米では神智学の流れを汲む「New age movement」が流行しており*"The Astrology of Transformation"* [Dane Rudhyar (1980)]のようにホロスコープを魂の進化の象徴ととみなす考え方も出てきました。黄道12サインの1度ごとに象徴を割り当てる「サビアン占星術」はMarc Edmund Jonesの幻視をRudhyarがこの線に沿って整理したものです。

「ホロスコープの四要素」

現代の占星術では、基本的にお客さん(クライアント)の出生した瞬間のホロスコープ(Birth chart, Natal chart)を元にして占いを進めていきます。日本国内で生まれた人であれば、出生地と日時は「母子健康手帳」に記載されているはずですが、往々にして時間不明のことがあります。正確な結果を得たい場合は、その人のこれまでの人生において発生した大きなイベントを用いて出生時間を推定する(rectify)しかありません。

ホロスコープは「サイン」「ハウス」「感受点」(惑星)および「アスペクト」の四要素から成り立ちます。よく使われる例えでいうならば、「惑星は役者、サインは配役で、ハウスは活躍するシーン」といった関係があり、それぞれの天体同士の関係(アスペクト)によって、人生のドラマが展開されると考えるわけです。

典型的なホロスコープの一例を図に示しました。最も外側の円は30度刻みで分割され、それぞれに記号が入っていますが、これは「サイン」(星座)を表しています。その内側にもう一つ円があり、これが「ハウス」です。サインと違い、一般に各ハウスの幅は30度一定ではありません。ハウスのスタート地点を「カスプ」と呼び、この例では第5ハウスカスプは魚座になります。ハウスカスプは必ずしもサインの開始点(0度)と一致せず、またハウスの大きさもまちまちのため、一つのハウスが複数のサインにまたがることや、逆に一ハウスが完全に一サインに含まれてしまうこと(インターセプト)もあります。



野々原姫子:1978年7月30日正午 風立市
(水沢めぐみ「姫ちゃんのりぼん」[1993])

全ての人のホロスコープには、12サイン・12ハウスに属する複数の「感受点」が記入されています。感受点には10惑星・アセンダンス(ASC:第一ハウスカスプ)・MC(第10ハウスカスプ)の他に「ケイロン」などの小惑星、ノード、あるいはパートオブフォーチュン(POF)などが含まれます。(ノース/サウス)ノードというのは黄道と白道(月の軌道)の交点をいいます。POFは太陽・月・アセンダンスの位置から計算される点です。こういった「アラビックパーツ」は山ほどあり、その名からわかるように、イスラム圏で発達した占星術が古典占星術に取り込まれたものです。複数の感受点が特定の角度をなした時に「『アスペクト』を作る」といい、許容される誤差の大きさをオーブと呼びます。ここに示した例では水星・土星、木星・金星、月・冥王星・海王星がアスペクトを作っています。

「星占いは信用できない？」

「太陽星座占い」の元祖は占星術家の R.H.Naylor が「London Sunday Express」1936年2月4日号から連載を始めた運勢判断です。「太陽星座占い」のどこが便利かと言えば、誕生日さえ知っていれば誰でも簡単に自分の「星座」がわかることです。

地球は太陽の周りを一年で1周しますが、昔の人は「地球の周りを太陽が動いていく」と考えており、その通り道を「黄道」と呼んでいます。これを12等分しておく、一ヶ月で一つの区分を太陽が通過することになります。西洋占星術では「春分の日」の太陽の位置（春分点）を「牡羊座」のスタート地点にしています。そこから30度ずつ区切って行って、同じように近くにある星座の名前をつけたものが、「星占い」に使われる12星座（サイン）です。こういうサインの決め方を「Tropical system」と呼びます。

インド占星術でも古典占星術同様、12サイン・7惑星を使用しますが、惑星のサイン上の位置が異なります。その理由は、12サインの割り当てを「実際に見える星座」の位置（コンストラクション）に基づいて行なっているからです。このように実際の恒星の位置を基準にしたサイン配置を「Sidereal system」と呼びます。西洋占星術理論の成立した紀元前1世紀ごろに、春分点は実際の星空の牡羊座に位置していました。しかし春分点は地球の歳差運動のために72年に1度の割合で黄道上を逆行するので、21世紀現在の春分点は実際の魚座6度付近にあります。ゆえに西洋占星術とインド占星術では惑星の表示が24度分違うというわけです。

春分の日は3月21日前後ですから、毎月、21日付近を境にして太陽は次の星座に移ります。こういう事情から、毎月21日付近に生まれた人は要注意で、例えば12月21日生まれの人は「山羊座」と書いてあっても、生まれた時の実際の太陽星座は「射手座」だったかもしれません。「天文暦」（Ephemeris）を見ると、何日に太陽が次の星座に移るか、ということがわかります。天文暦には「太陽」の他に、少なくとも「月」「水星」「金星」「火星」「木星」「土星」「天王星」「海王星」「冥王星」の位置が掲載されています。土星までの7天体は全て黄道の上下8度以内を回っているのもそのままだと、3つの外惑星の周回経路は黄道上に引き写して位置を表示しています。

現代の普通の西洋占星術では、これら10天体が、どのサイン・ハウスに入っているか、ということ元にして占いを行ないません。それぞれ12種類ありますが、水星・金星は太陽からそれぞれ1,2サイン以上は離れないため、可能なサイン・ハウスの組み合わせ数は $(12^8 \times 3 \times 5)^2 = 4.16 \times 10^{19}$ となります。動きの遅い外惑星を除いても、現在の地球上の人口約60億人（ 6.0×10^9 ）より10倍は大きい数字が出てきます。実際の占いではこれに加えてASC・MCの他、小惑星やアラビックパーツ・ノードといった計算上の感受点を使うこともあるため、更にホロスコープの多様性は大きくなります。日本人約1億二千万人の運勢が、たった12種類に分けられるなんておかしいという声をよく耳にしますが、同じ星の下に生まれた人がいる確率は極めて低く、それゆえに太陽星座占いはかなりラフなものといえるでしょう。

「サインとハウス」

「サイン」(星座)とは、地球を中心にして円(黄道)を描き、それを12当分したもので、サイン上の10天体の配置は、宇宙空間における天体の相対的な位置を示すこととなります。月以外の惑星の移動は、地球と他の惑星の太陽を中心とする公転運動によって引き起こされ、一方、月は地球の周囲を公転しています。いずれの公転軌道半径に対しても地球の赤道直径は十分に小さい(1%以下)ため、地球の大きさは無視してかまいません。つまり、地球上の「どこから見ても」、同じ瞬間に10天体は同じサイン上の位置を占めることとなります。

これに対し「ハウス」は、地球上の「特定の点から見た」天体の方向を示すために使用されるものです。古典的な考えに従うなら、天体のサイン上の分布は「天上の世界」で働く原理を示し、ハウス上の分布は、その「地上の世界」における現れ方を示すとされています。12ハウスは「恋愛」「投資」など、それぞれが管轄するテーマをもち、その中に入っている天体や、ハウスカスプが位置するサイン・その支配星などを用いて、個別具体的な内容について占うわけです。

地球から見た場合、黄道は地平線と子午線を基準として4分割できます。地平線と黄道の東側・西側の交点をアセンダンス(ASC)・ディセンダンス(DSC)、黄道と子午線の南側・北側の交点を天頂(MC)・天底(IC)と呼びます。二軸で区分される領域を更に3分割すると12個ハウスができるわけです。ハウスは現存する最古(紀元10年頃)の占星術書である”*Astronomic*”に

登場しており、同じローマ皇帝ティベリウス時代に、地平線と子午線が入った最古のホロスコープ図が作られています。

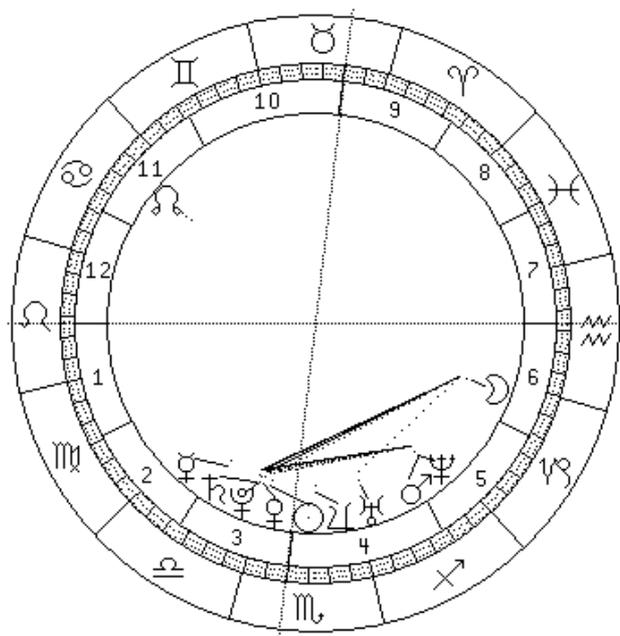
ハウスカスプは4分で一度動きます。その理由は地球の自転運動によって黄道12サインが天体を乗せたまま、一日に360度回転するためです。わかりやすく説明しましょう。2004年8月15日に東京都有明に出かけ、日の出前から子午線に沿って真南の方向を向かって立っていると、朝5時ちょうどに東の地平線(ASC)から太陽が昇ってきます。11時45分に太陽は南中し(MC)、18時31分に西の地平線(DSC)に沈んでいきます。この日、太陽は獅子座にあるはずですから、太陽と一緒にこの星座も移動しているはずですが、

ハウスの概念が考え出された時代には、ASCが入っているサインをそのまま第一ハウスとして、そこから30度ずつハウス分割を行っていたことが知られています。この”Whole Sign House system”ではASC,MCが必ずしも第1,10ハウスのカスプと一致する保障はありません。現在、使用される主要なハウスシステムは”Space system”と”Time system”の2種に分類されます。前者はいずれも地平線を基準に物理的に空間を単純分割するもので Regiomontanus と Campanus があります。古典占星術には普通、こちらを使用します。後者は一回転に要する時間を12分割する方法で、日本では Placidus が有名です。ところが高緯度地方では夏・冬に昼・夜の時間差が大きく、Placidus を使用すると実用上問題あるハウス分割になってしまいます。そのため、欧州地域では緯度も結果に反映される Koch を使用する人が多いみたいです。

「惑星とアスペクト」

黄道 12 サインは「4 エLEMENT」・「3 モード」といった分類が可能で、あるサインから見て同一ELEMENTに属するサイン(0度・120度)と60度をなすサイン(火 - 風、水 - 地)は協調的。同一モードに属するサイン(90度・180度)は必ず異なるELEMENTに属するために対立的な性質を持ちます。複数の感受点を作るアスペクトの性質もサイン同士の関係と類似しています。協調的な配置を”soft (easy)” aspect、対立的な配置を”hard (challenging)” aspect と呼びます。「soft aspect は吉、hard aspect は凶」と書いている本もありますが、必ずしもそうとは言えません。下表に Major aspect を示しましたが、この他に、30度や45度等の Minor aspect も存在します。

参考例のチャートでは、天秤座の終わりから蠍座の始めにかけて土星・冥王星・金星・太陽が集中しています(stellium)。一方、火星と海王星が射手座でconjunctしており、これが上記の惑星とsextile。山羊座の月もstellium惑星に対してsquareに位置します。このチャートで最も強く働いているのstelliumの惑星が入っている領域で、



水木なつみ (1982年10月25日0:00)
(中森衣都「ママは小学4年生」[1993])

それに対して sextile の惑星は協力的に、square の惑星は変化の原動力として、それぞれ働きます。

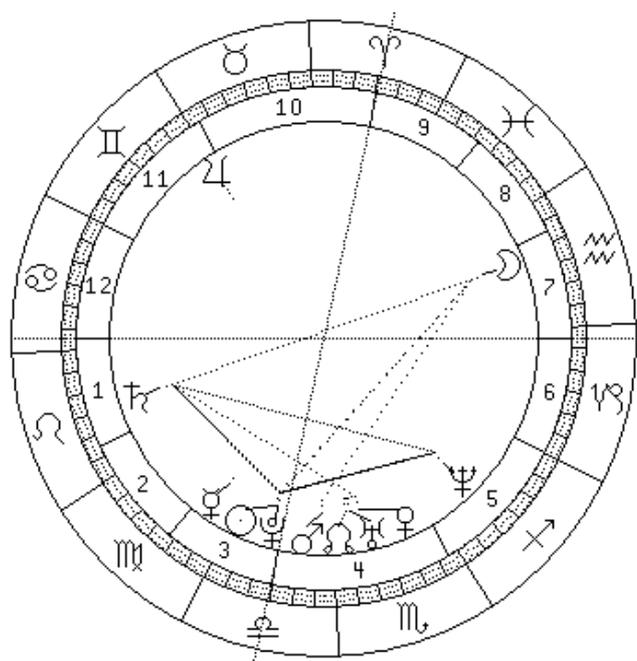
このチャートには出てきませんが、時として衝 (opposition) をなす惑星のちょうど真ん中に別の惑星が入り、全体として「T」の形を作ることがあります。これを「T-square」と呼び、軸となる惑星の作用が強く現れます。

Brief meaning of the major aspects		
Aspect	Angle	Mode of Expression
conjugation	0	focus of meaning
sextile	60	recognized the individual meaning of the planet in the relationship of mutual support
square	90	stressful, an assertion of independence, a position of breakaway and development
trine	120	harmonics, give ease and satisfactory resolution
opposition	180	awareness-tension, complementary

「ディグニティーとディポジター」

12サインはそれぞれ、自分を支配する天体（ruler）を持ちます。天体は自分が支配するサインにいる時に最も強い作用を発揮し、「dignity を得る」といいます。ここに示したチャートで言えば、乙女座の水星がこれに相当します。この水星で言うと魚座になりますが、一般にある天体の支配サインに対向するサインを「detriment の位置」といいます。その位置に属する天体は本来の性質をうまく発揮することができず、むしろサインの色彩の方が強く現れます。Ruler sign とは別に、各天体は調和的なサインというものをもっていて、これを「exaltation」のサインと呼びます。これと対向するサインが「fall」の位置にあたり、天体の悪い側面が現れがちになるとされます。このような考え方は古典占星術で重視され、この他にもいくつかの essential dignity と accidental dignity を実占に使用します。

「ある惑星が支配するサインに別の惑星が入り、その惑星が支配するサインに又、別の惑星が入り・・・」という一連の系列を「Dipositor」と呼びます。このチャートでは「海王星 木星 水星」「土星 太陽 金星」「月 天王星 冥王星」の三系列があり、火星は直接、金星に辿りついていきます。ホロスコープを一つの文書と考えた場合、Dipositor は複数の意味をなすセンテンス（惑星）をパラグラフに繋ぎ、一連の話に纏め上げるルールに相当します。惑星を役者と考えるなら、「一人の行動が他の行動と有機的に関連して劇が展開されるかどうか」ということがここから読み取れます。



桜橋涼香（1976.10.3, 23:45, 東京）
「秋桜の空に」（Marron, 2001）

上のチャートには「天秤座 - (所属) - 冥王星 - (支配) 蠍座 蠍座 - (所属) - 金星 - (支配) 天秤座」といった循環構造が存在します。こういう「mutual reception」の天体が属する領域では、それぞれの活躍が協奏的に働く傾向がありますが、一方でこのような惑星同士は「self-escalating closed system」としての性質も持ちます。この性質は2惑星の間にアスペクトが存在する場合、比較的よい方向に現れる傾向があるとされます。

このチャートでは冥王星と太陽が合なので、mutual reception の効果は自我を象徴する太陽にも及びます。自我に関する第3ハウス（「兄弟の座」）の天秤座の部分と、女性性（恋愛）に関する第4ハウス（「家族（母性）の座」）の蠍座的部分が人生においてクローズアップされる、潜在的な要素を秘めていることがわかります。

「心理タイプの簡単な見分け方」

C.G.Jung は 1927 年に「タイプ論」という本を出しています。これによると、人間の性格は「内向・外向」という二つの性質の方向性と、「思考・感情・感覚・直感」という四つの心理機能のバランスによって規定されます。「外向的」とは、自分の外部にある大きな価値を認め、それに向かって関係を広げて行こうとする態度を、「内向的」とは自分の内なる意思を優先させ、外からの圧力に対して、あくまでも自分の価値観を守ろうとする態度を、それぞれ示します。4つの心理機能は「思考 - 感情」と「感覚 - 直感」の二軸から構成されます。前者は物事の判断に当たり、論理と感情のどちらを優先するか、ということ、後者は物事の把握に当たり、五感に基づく快・不快を優先するか、それとも「第六感」とでもい

うべきものに従うのか、ということ、それぞれ表します。

心理占星術では 12 サインの 3 モードのうち Cardinal(C)と Fixed(F)は外向・内向に対応し、mutative(M)は状況によってそれが変化すると考えます。4 エレメントのうち「風 - 水」が「思考 - 感情」に、「地 - 火」が「感覚 - 直感」に対応します。そこで各サインに入っている天体のバランスを見ることで、その人のおおまかな性格がわかるわけです。下表は太陽・月を 5 点、水星～火星を 3 点、木星・土星を 2 点、天王星～冥王星を 1 点として合計点を計算した結果で、太字は 100 人に一人以下の確率でしか生じない偏りを示します。全員、太陽星座は mutative の風(双子座)ですが、中には Fixed や水が強い人もいます。また誕生日が同じでも生まれる年が異なると、違う心理タイプを示すことがわかります。

名前	作品	誕生日 (AM9:00)	モード C/F/M	エレメント 火/地/風/水
宝生波音	ぴちぴちピッチ	1989.5.24	12/01/13	00/09/13/04
鮎川まどか	きまぐれオレンジ ロード	1969.5.25	03/03/20	06/11/08/01
信楽美亜子	With You ~ みつめていたい	1982.5.25	09/02/15	05/00/19/02
皆瀬葵	Pia キャロット2	1976.5.26	03/17/06	04/13/06/03
志ノ原花音	うえるかむ!	1977.5.28	07/06/13	09/08/08/01
椎名ゆうひ	とらいあぐるハート2	1980.6.01	12/01/13	01/12/06/07
城宮椋	もみじ	1984.6.01	04/08/14	01/06/14/05
上月澪	ONE	1982.6.04	06/10/10	02/03/14/07
丘野ひなた	WIND - a breath of heart	1985.6.04	04/13/09	06/06/09/05
矢口茉理	パティシエなにゃんこ	1986.6.09	15/01/10	03/04/05/14
長谷部彩	こみっくパーティ	1982.6.12	06/10/10	02/03/19/02
七瀬ほのか	いたいけな彼女	1985.6.12	09/08/09	06/04/10/06
古式ゆかり	ときめきメモリアル	1978.6.13	06/06/14	06/05/09/06
国宝雪絵	燃える! お兄さん	1973.6.19	08/07/11	01/00/16/09
白河ことり	D.C.	1986.6.20	07/09/10	06/04/05/11
四葉	シスタープリンセス	1988.6.21	01/03/22	03/08/11/04

「ホロスコープと心の関係」

現代占星術の技法を使う占星術師は、お客さん（クライアント）がやってくると、まず natal chart を作ります。心理占星術ではこれをクライアントの心の原型図として扱います。その体系的な教科書としては Glenn Perry の「*An Introduction to Astro Psychology*」と「*Essay on Psychological Astrology*」(Association for Psychological Astrology 販売)がわかりやすいと思います。

「*Essay on...*」の第9章に、「ホロスコープは人間の心理に対応した4階層から成る」という話が掲載されています。まず第一層は12サインそのもの(Zodiac)で、これはユング心理学でいうところの「原型」(archetype)に相当します。それぞれのサインは基本的な欲求を示し、それが行動として表現されます。例えば「双子座の人は好奇心旺盛で口数が多い」といった行動の傾向は、このサインの持つ「学習・コミュニケーション」に対する基本的欲求の発現と見るわけです。12個の基本欲求は全ての

人が静的な形では持っているわけですが、人それぞれに異なった形で動的に表現されます。これは、各人のホロスコープにおける天体の配置が異なることに対応します。天体同士のアスペクトは、それぞれのニーズ間の関係（協調的とか対立的など）を示し、それは当の本人に意識されない、外部を認知するための個人的な神話(Personal Myths)を構成します。この辺は、浅野「自己への物語的接近」の議論にも通じる所があるかもしれません。このような神話は、無意識の形で個人の経験の意味づけを行い、逆にその人の行動を規定します。天体はそれが入っているサインのニーズを活性化させ、それが当人に意識されることで、外部から観測できるその人の思考・気持ち・ふるまいとなって現れます。ハウスはそれが現れる文脈、あるいは他人との間に発生する出来事を示します。

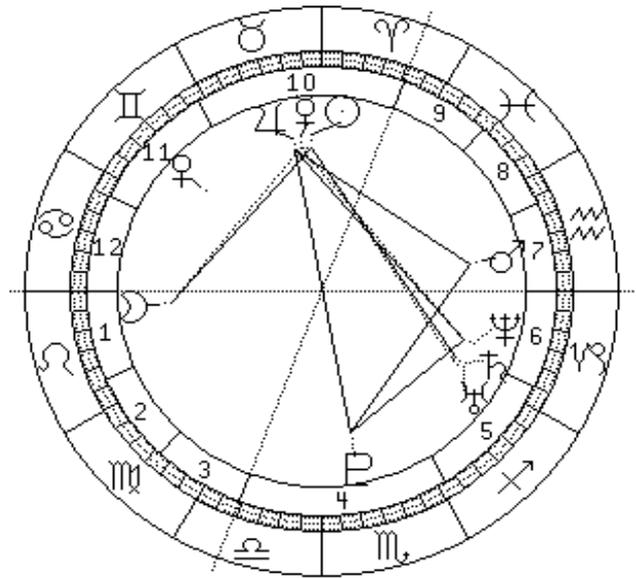
心理占星術はホロスコープから無意識の動力学を読み取り、個人神話の組み直しを助けることで、問題解決に繋げようとする技術ということもできます。

---- An Astrological Mode of Conscious (from "*Essay on Psychological Astrology*") ----

Level	The Horoscope as;	Psyche	corresponding to;
1	A hierarchy of basic needs	The archetypal structure	The zodiac
2	Revelatory of underlying cognitive structure	Personal Myths (deep structure) Pattern of thought and belief	Planetary aspect
3	Descriptive of surface personal traits	Conscious thinking, feeling and behavior (Style of personality)	Planetary Sign position
4	Predictive of outer world experiences	Recurrent pattern of event, circumstance and relationship	Planets in the houses

「ホロスコープのどこを読むか」

今時、適当なフリーウェアか web site でも使えば、誰でもホロスコープを作ることができます。しかしその解釈は一筋縄では行かないものです。ホロスコープのパーツから全体を読む方法論を「Chart Synthesis」といいます。詳しくは Tracy Marks “*The Art of Chart interpretation*” なり、Donna Cunningham “*How to read your astrological chart*” なりを参考にしてください。心理占星術をベースとした入門書には「まず太陽・月・アセンダンスを見る」と書いているようですが、それはこれらがユング心理学でいうところの「自我・無意識・ペルソナ」に対応することに由来します。太陽と逆側のサインや土星の位置は、その人の否定的な部分(シャドウ)を示します。エレメントとモードは心理機能と外向・内向性に対応するので、それらのバランスに着目するのも一つの方法です。ただし、全てのチャートで太陽や月が強く働いているわけでもないので、上記の方法が常に有効に使える保証はありません。惑星の働きの強さ・良さを知るには、惑星とサインの関係(dignity)や、惑星同士のみならずアスペクトなどを参考にします。ホロスコープ上の天体は、それぞれが象徴する分野に関するポテンシャルを、アスペクトはそのエネルギーの流れをそれぞれ示します。ハードアスペクトが示す複数の欲求の衝突は、人生の変化の原動力となります。普段は可能性として潜在化しているこのような心の内部の不調和は、トランジット天体がこれらの天体の上を通る時に(しばしば外発的に)顕在化します。



御子柴姉妹：1988.4.24. 9:50JST. サハリン
「Clover Heart's」(ALCOT, 2002)

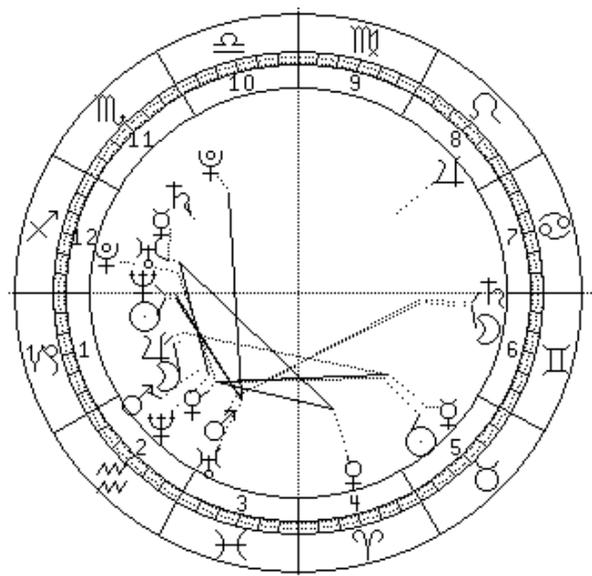
そこで、タイトかつハードなアスペクトを作っている天体、具体的には $0 \cdot 90 \cdot 180 \pm (1 \sim 2)$ 度の角度をなしている天体を探し、そのサイン・ハウスからチャートの特徴を読む方法を使うと「時期」を絡めて問題を分析するのが容易になるわけです。

具体例を示します。上に示したチャート(出生時間は推定)で着目すべきは木星・火星・冥王星の T-スクエアで、1999 年 4 月にそれぞれの天体の上を土星・天王星・火星が同時に通っています。同年 8 月にもう一度同じような配置を取り、この時は土星に加えて木星も影響を与えます。彼女たちが横浜にやってくる 3 年前に明確な敵による異変(第 7 ハウス・水瓶座)が起こり、それは組織化された旧態化権力による金目的のものであり(第 10 ハウス・牡牛座) 家族(第 4 ハウス)・家族が傷つけられて深い悲しみを負った(第 4 ハウス・蠍座)」ということが読み取れるわけです。

「人生の転機も予想できる？」

その結果が確定的な事象を示すのか、それとも心理的な状態を示すのかという点については議論があるものの、西洋占星術には未来予測のための手法がいろいろと用意されています。特に有名なのが「リターン」・「トランジット」・「プログレス」の各方法です。リターン法は特定の惑星がちょうど一回転してきた時のチャートを、そこからもう一周してくるまでの代表として用いるもので、特に太陽を用いる「ソーラーリターン」は誕生日から一年間の運勢を見るのによく使用されます。トランジット法はnatal,transit各チャート上の天体のアスペクトを見る方法で、当人にとっては外発的な形で影響が現れてくるように見えることが多いみたいです。プログレス法は一定の規則で経過時間に応じて natal chart 上の天体を進行させるものです。一番有名なものは secondary progression (一年一日法)で、これは地球の自転によって天上の春分・夏至・秋分・冬至点を一日で回ることから考え出されたものです。時間の経過によって Progress 天体が次のサインやハウスに移動すると、それに応じて内面の状況が変化すると考えておけばよいでしょう。通常、未来予測には natal, progress, transit チャート上の天体を同時に比較します。Progress 天体の動きは遅いので、アスペクトのオーブは小さく取り(1度程度)、普通は火星までの天体を使用します。以上の細かい技法については、Sasha Fenton「*Predicting the Future with Astrology*」や、Carol Rushman「*The Art of Predictive Astorology*」などを参考にしてください。

テレビや雑誌の占いは「トランジット法」の単純化バージョンに他ならず、個人の natal の太陽星座に対する transit 天体の位置関係を見ているものです。毎日の運勢のように細かいものを見る時には月の動きを、一ヶ月レベルの話なら太陽～金星ぐらまで、年レベルの運勢になると、それより外の惑星(特に木星と天王星)を主として参考にします。出生時間不明なのにどうやって「本月は美術館デートが吉」のように具体的な結果を出すかという、誕生星座を第一ハウスとし、以下順次サインハウスで12ハウスを割り当てているのです(solar house法)。12月24日生まれの人ならば、第一ハウスが山羊座で、「恋愛のハウス」(第五ハウス)は牡牛座。2003年5月前半であれば transit の太陽が牡牛座を運行しているので「この時期は恋愛運上昇」のように解釈するわけです。これに「芸術」など牡牛座に関連する事項を付け加えると、上のような話になるわけです。

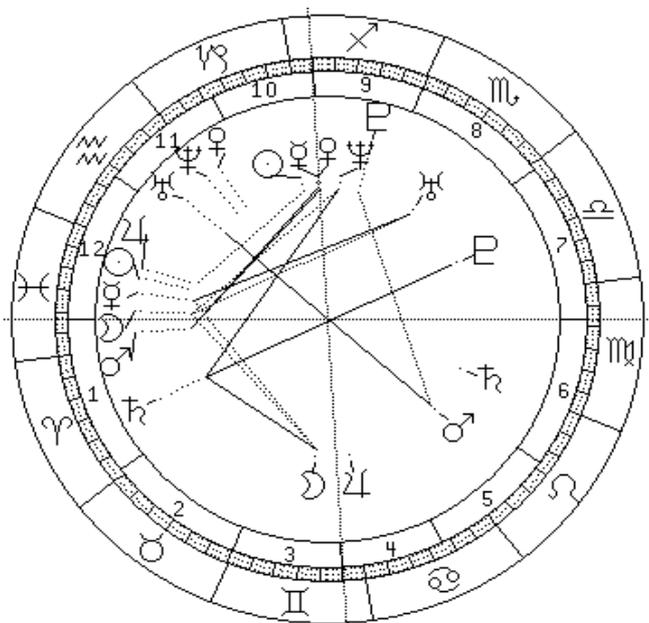


内側：古河渚(1984年12月24日)
「CLANNAD」(Key, 2004)

「イベント発生時のチャート例」

(1) 森川由綺のケース

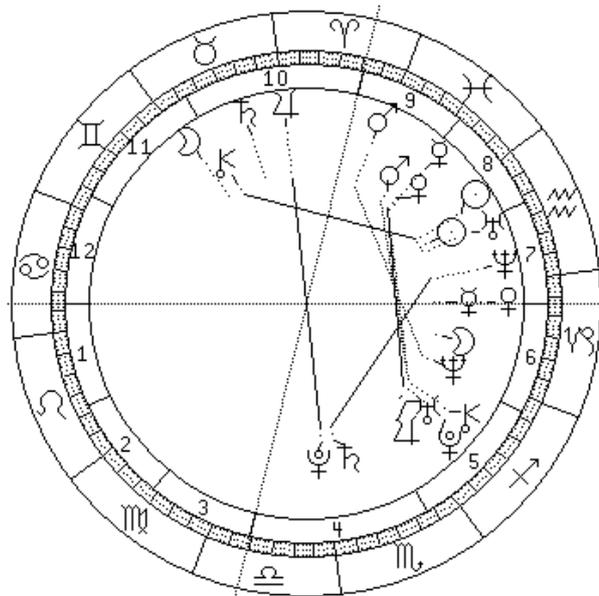
音楽祭前日の1998年2月27日夜に仕事と恋愛(結婚)に関係した大イベントが発生します。この日の transit chart を検討すると、太陽・月・水星・木星がASC付近の魚座12度でステリアムを作っており、これが第7ハウス・射手座8度の冥王星とスクエア。その付近に progress の月と海王星が来ています(魚座18度と射手座17度)。一方、transit と natal の関係を見ると、まずMC近傍(射手座26度)の natal 水星・金星の合に対して transit 火星のスクエア(第1ハウス・魚座25度)。更に natal がもともと持っている天王星(第8ハウス・蠍座15度)と火星(第5ハウス・獅子座10度)のスクエアに transit 天王星(第11ハウス・水瓶座10度)が絡んで T-スクエアを形成と、かなり激しい様相を呈していました。



内側：森川由綺 (1977.12.24, 11:10)
 (「White Album」Leaf, 1998)
 外側：Transit (1998.2.27, 20:00)

(2) 氷沼悠理のケース

2000年2月13日に大きなイベントが発生します。これは恋愛(第5ハウス)による「元カレの死」のトラウマの解消(第8ハウス)および創作活動の成功(第5・10ハウス)に関係するものです。personal planet(太陽~火星)が絡んだ hard aspect は二つあり、上記の3ハウスの間を結んでいます。まず注目すべきは natal 太陽と natal ケイロンのスクエアが、transit の太陽・冥王星および月によって刺激されている所です。なお、natal 太陽と progress 水星も弱い合です。次に natal 金星を見ると、transit の水星が合で、progress 太陽も弱い合になっています。natal 金星は元々、natal 木星・天王星とスクエアになっていて、トラウマの原因となった事件が起こった1999年以降、transit 冥王星がその上を通過していました。progress 火星と transit 火星も合で、natal 海王星とスクエアです。



内側：氷沼悠理 (1983.2.9, 15:00)
 (「Moon Light」Clear, 2000)
 外側：Transit (2000.2.13)

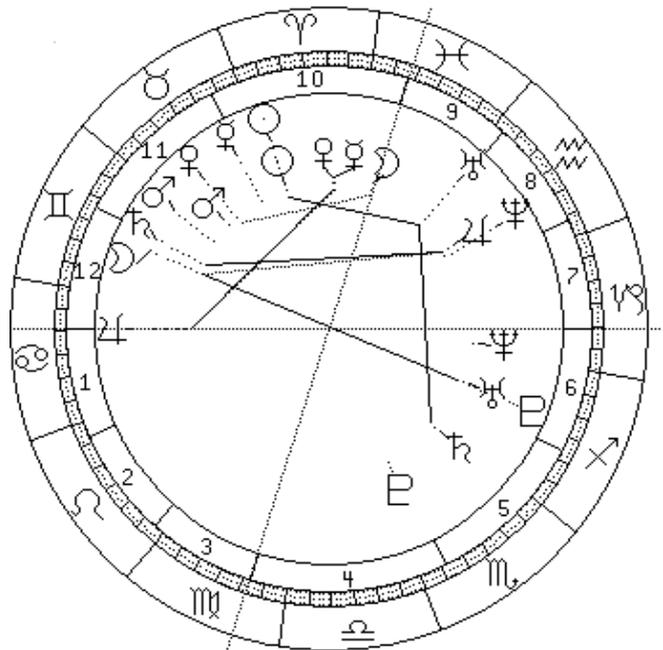
「ソーラーリターンで年運を読む」

ある人の誕生日から一年間の運勢を読む方法に「ソーラーリターン」を使用することがあります。太陽は約1年で同じ位置に戻ってきますので、1周してきた太陽が出生時の太陽と同じ位置に来る瞬間を計算し、その時の天体の配置を用いて占いを行なうわけです。ソーラーリターンの日は誕生日の前後1日程度ずれることもあります。これと良く似た方法に月のリターンを使用するもの（ルナ・リターン法）があり、これを使うと約一ヶ月（27.32日）間の運勢を読むことも可能です。

リターンチャートでまず着目するのは、移動したアセンダンス（ASC）とMCの位置で、それらが属するサインから個人的・社会的な生活において強調される側面が読み取れます。次にリターンチャート上の惑星の配置を検討し、最後にネイタルチャートとリターンチャートの比較を行ないます。

ここに挙げた例ではネイタルチャートのASCは蟹座9度。MC（魚座22度）は月と合で、これが牡牛座23度・第11ハウスの火星とセクスタイル。「母性的でともすれば他人と馴れ合いになりがちなことを自覚して、仕事の間では同僚ときちんとお金を稼ごうとする」といった感じに読めるわけです。このチャートのもう一つの特徴は水星・金星（牡羊座7度・第10ハウス）とASCのスクエアです。太陽も牡羊座であるために自己主張はかなり嫌いではないものの、仕事上の仲間にそれを向けることには躊躇しているといった雰囲気です。

続いて作品の舞台である17歳（高校2年）の時のリターンチャートを検討します。



内側：芹沢かなで（1985年4月17日9:30）

外側：リターン図（2002年4月17日12:25）

「パティシエなにゃんこ」

（ぱじゃまソフト、2003）

リターン図のASCは獅子座15度、MCは牡牛座8度で水星と合です。プライベートvs仕事の対立はこの年も解消されませんが、店のお金周りで同僚に一目おかれるようになることが予想できます。また、リターン木星がちょうどネイタルASCの上に乗りますので母性的なペルソナは強く出るでしょう。説明は省略しますが、この他にも

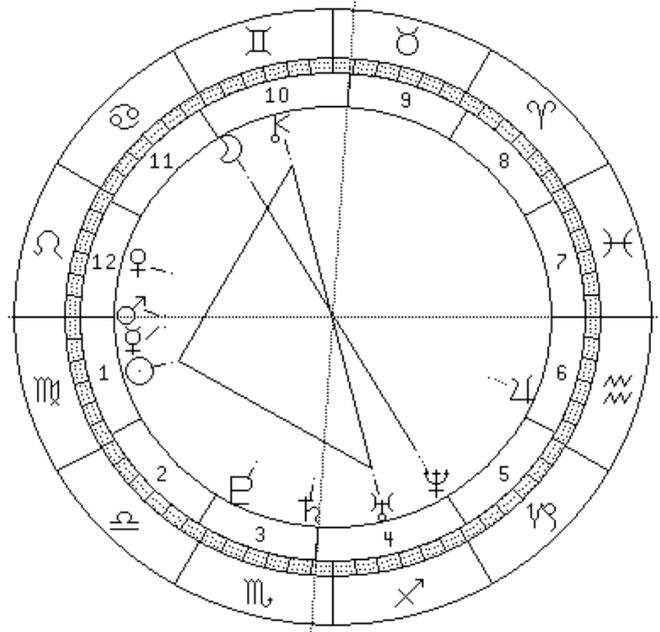
- NR太陽（牡羊座27度）* R天王星（水瓶座27度） N土星（蠍座27度）
- [R月（双子座15度）合R土星（双子座11度）] 衝 [R冥王星（射手座17度）合N天王星（射手座17度）]

といったアスペクトが形成されています。特に後者は秘められた感情の自由な発現が抑えられ、そのために現状を変えたいとする欲求が高まることを暗示しています。

「双子は同じ人生を歩むのか？」

よく耳にする占い批判に「双子は全く同じ人生を歩むのか？」というものがあります。これは「出生時の星の配置が、その後の運命を確定する」という宿命論的な考えを批判するもので、現代占星術もおおむね、その価値観には賛同します。心理占星術にも影響を与えた Dane Rudhyar 等、「New Age」世代の humanistic 占星術では、ホロスコープをユング的な「マンダラ」ととらえ、その中の天体はその人のポテンシャルを示すと考えます。人間の魂はその全体的な統合と変容をめざす傾向があり、チャートに偏りがあったとしても、それによって生じる不得意な部分は個人の努力と他人との人間関係の中でリカバーできると、現代の占星術では考えているわけです。

それでは双子の性格についてはどうか。きちんとした学問的研究については宅摩・天羽・安藤「ふたごの研究」を読んでいただくとして、占星術的な典型的な例について以下に紹介しましょう。ここに示したのは一卵性双生児の出生時間近傍のチャートです。まず着目すべきはアセンダンス（ASC）が獅子座と乙女座の境目にあり、その上下に火星（獅子座 29 度）と水星（乙女座 3 度）があることです。これらの惑星はイグザルテーションおよびディグニティーの位置にあるため、ここに ASC が乗ると、その影響は極めて強く現れます。ハウスカスプは 4 分間で一度動くので、両惑星の間を ASC が移動するには 16 分間かかります。ケースによってまちまちですが、双子の出産間隔は大体、これぐらいのものです。このチャートには月と海王星（蟹・山羊 0 度）



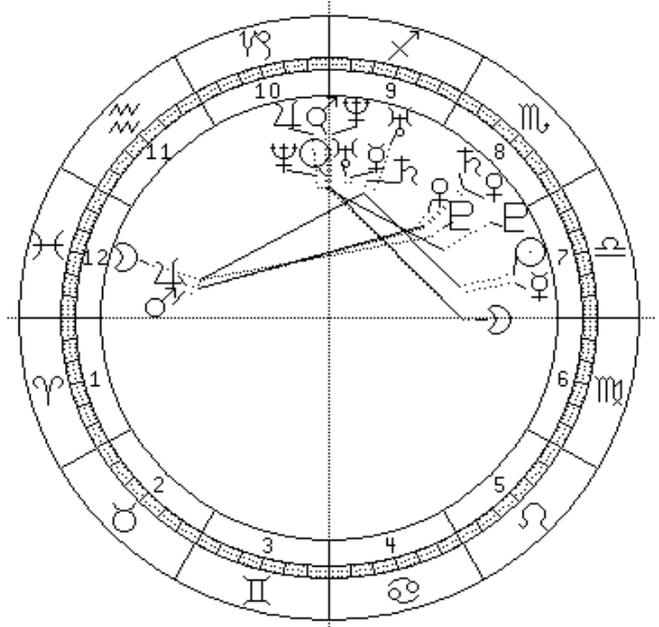
藤林姉妹 (1985 年 9 月 9 日 AM9:00 ごろ)
「CLANNAD」(KEY, 2004)

の強い衝があり、それがちょうど 10-11, 4-5 のハウスカスプにかかっています。これは、このアスペクトが示す矛盾が人生のどういう局面で表面化するか、という所が出生時間の微妙な違いによって変わることを示します。どちらのチャートも太陽は乙女座で第一ハウスですが、T-スクエアのカイロンと天王星がこれに影響を与えているため、自分に自信がもてず、不必要までに個性的であろうとするか、逆に周囲に迎合しようとする傾向があります。また他人の目を意識した「きちんとしなくてはいけない」という思い込みが、そこから自由になりたいという欲求と衝突している様子です。姉（杏）は ASC が獅子座で月は第 11 ハウスですから、親しいグループの中心人物として振舞いたいし、派手好きなどところもあるでしょう。妹（椋）は ASC 乙女座で月は第 10 ハウスなので、周囲の評判を気にし、自分にも他人にも厳しい傾向が姉よりも強く出てきます。

「 ~ 男心に男が惚れて ~ 」

未来予測とともにニーズが高いものが「相性占い」でしょう。Composite 法など、いろいろとテクニックが開発されているわけですが、特殊な方法を使わなくとも、それぞれの人のチャートからきちんと性格や行動パターンを読み取ってやればよいわけです。ある人のホロスコープ中の太陽と月はその人が考えている「本当の自分」像と、無意識に行動に出てしまう部分を象徴します。大抵の人は社会生活を送る上で「猫」を被っているもので、これはアセンダンスを見るとわかります。水星はコミュニケーションや思考のパターン、金星はその人の心地よいと思うことや価値観、火星は情熱を投入する先を示します。二人の人間の相性を見るには「二重円チャート」を作り、それぞれの天体が相手の天体とどういう位置関係にあるか、という点を検証します。この時「一方の天体が相手のどのハウスに入るか」という所を見ると、人生のどういうシチュエーションで相手の影響が現れるか、という所まで読むことができます。

具体的に説明しましょう。ここに示したのは、テニス部の先輩(手塚)・後輩(越前)の関係にある二人のチャートです。まず目につくのは、山羊座の始め付近に二人の天体が集中している所です。さらによく見ると、手塚の金星・土星と越前の金星も射手座で合で、これらに対し越前の木星・火星が120度(トライン)に位置しています(魚座)。このように、狭いオーブで互いの惑星がアスペクトを作っている場合は、良くも悪くも係わり合いが深いといっておかまいません。



内側：越前リョーマ(1986年12月24日)
外側：手塚国光(1984年10月7日)
許斐剛「テニスの王子様」(1999)

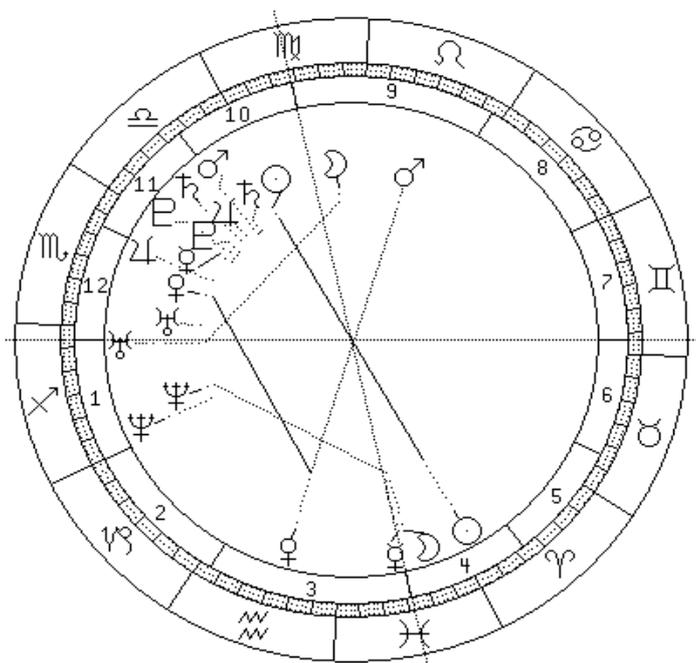
手塚の厳しくスポーツに情熱を傾けようとする態度と、越前がそうあるべきだと思う姿はよく一致しているようです。山羊座には組織・上下関係という意味もあるので、そういうことに厳しいかと言えば、そうでもなさげです。どちらの金星も射手座にあるので、基本的にはオープンで、個人の自由を愛するわけですが、手塚についてはそれが土星によって抑圧されているので、越前ほどそれが表面に出ていないわけです。手塚の土星は越前の金星に対しても圧力として働きますので、その意味ではうっとおしい所があるかもしれません。越前の金星に対して魚座の火星が影響を与えているので、彼は意外にも他人の感情に敏感で、他人のために何かすることは苦ではないはずです。そのような態度は、手塚にとっても不快なものではないでしょう。

「男女の相性を読む」

ユング心理学によると、男女問わず、人は原型的な女性イメージ（アニマ）と男性イメージ（アニムス）を持つとされます。恋愛は内なる理想的な異性のイメージを相手に投影し、同性のイメージを相手に対して提示することで成立します。ゆえに女性の持つアニムスと男性の持つアニマおよびその逆の組み合わせに差がないほど、苦勞なく恋愛は進むわけです。心理占星術では金星・火星がそれぞれアニマ・アニムスを示すと考えます。なお、太陽と月はそれぞれ父親と母親の原型イメージを示します。

惑星同士のアスペクトには「ソフト」なもの、「ハード」なものがあります。人間関係で言うならば、前者（トライン：120度）は当人たちが意識しなくてももうまくやっていたり、ともすれば安易に流れ勝ちで動きに欠ける。セクスタイル（60度も）これに似ているが、当人の意識的な努力が必要。これらに対して後者は衝突（スクエア：90度）や緊張関係（オポジション：180度）はあるものの、一面で互いの人生の刺激となったり、足りない部分を補ったりすることができるという利点があります。特に、スクエアをなす天体上をトランジット天体が通過する時が運命の転換期です。

ここに示したカップルの場合、太陽は牡羊座と天秤座の強い衝で、月のサインも魚座と乙女座と全く逆。つまり互いが理想とする生き方も無意識のうちにとってしまう行動パターンも全く逆なわけです。これは二人の間に緊張をもたらしますが、一方で互いに欠けているものを補完しあう関係にあるということもできます。



内側：長森瑞佳：1981.9.26, 10:30（推定）

外側：折原浩平：1982.3.24, 12:00

「ONE 輝く季節へ」(Tactics, 1998)

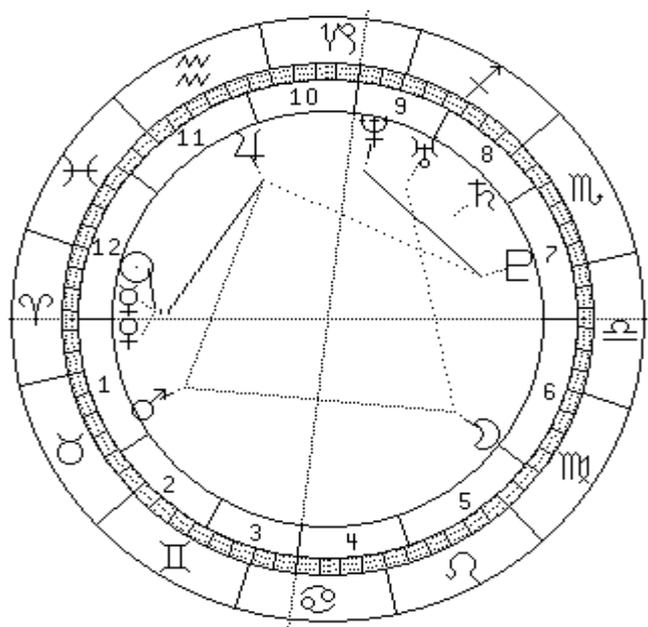
女性側の金星は蠍座、火星は獅子座で強いスクエア。これがどういうことかという、当人の理想の男性像は野心的だがしっかりと自立した人材であるのに対し、いざ恋愛となると情感が深すぎて相手を縛り勝ちな傾向がある。このスクエアに対して男性の金星が水瓶座で更にスクエアをなすことで、全体としてTスクエアを形成している。男性側としては、相手に対して友好的かつフラクではあることは期待しても、深い関係になることはあまり好むたちではありません。クールなことを吉とするところがあるので、あまりドラマティックな恋愛を求められても迷惑といった所でしょう。1990年の夏から秋にかけて、女性の金星の上を冥王星が運行したことから、二人の間に大きな動きがあったことが推定できます。

「二人の仲はいつ破綻するか」

会社や恋人など、複数の人からなる集団の傾向や動向を見る方法の一つに「コンポジット法」というものがあります。所属者全員のホロスコープにある同じ感受点同士について位置を合成したチャート（composite chart）を作り、それを個人のチャートと同様に解釈していくわけです。もっともよく使用される二人の場合では、例えば太陽同士の中点がコンポジットの太陽となるわけです。例えば蟹座 20 度と蠍座 20 度であれば乙女座 10 度と魚座 10 度というように 180 度対向する 2 点を作ることができます。通常は内側の角度を使用しますが、このような問題があるために、コンポジット法では天体が所属するサインやハウスの絶対的な位置よりも、むしろそれらが作るアスペクトの方を重視します。

二人のチャートを比較する synastry 法では、互いが相手についてどう感じるか、あるいは人生のどういう場で影響を与えるかといったことがわかります。コンポジットチャートは二人の関係から作り出される「場」の傾向、いわば第三者から見た「カップル像」のようなものを示すもので、「二人の人間の合成像」ではありません。コンポジットチャートと個人のチャートを比較することで、その人がその場所から受ける影響を知ることにも可能です。また、コンポジット天体とトランジット天体の相互作用を調べることで、二人の関係に動きが生じるタイミングを予想することもできます。

具体例を示しましょう。ここには示していませんが、男女ともに牡羊座で、特に女性は MC 上で太陽・水星・金星が合です。



丘野真（1984 年 4 月 13 日 17:00 東京）＋
藤宮望（1985 年 4 月 3 日 11:50 東京）
“Wind –a breath of heart-“ (minori, 2002)

コンポジットチャートの特徴としてアセンダンスに太陽・水星・金星が合になっていることが挙げられます。非常に活発で外部に対しても積極的に行動する印象があり、それは木星の理想主義に支えられています。しかしそのような火星的な情熱は地に足をつけた現実志向とは折り合いが悪く、無意識の側面はむしろそちらを支持する形となっています。現実を変えようとする働きと現実志向の対立は天王星と月のスクエアにも現れています。二人が出会ったばかりの 2002 年 5 月ごろのトランジットチャートを見ると、双子座 15 度の土星と射手座 16 度の冥王星が衝で、コンポジットの天王星・月と T-スクエアを作ります。この時期は火星・水星も双子座に入ってくるために、姉妹や身近な人間関係で、何となく伸び伸びとできない雰囲気になっていたかもしれません。

参考文献

1. 武田庸太郎「検証・占いの真相」現代書館（2001）
2. 藤巻一保「占いの宇宙誌」原書房（2001）
3. 大村政男「新訂 血液型と性格」福村出版（1998）
4. アイゼング&ナイアス「占星術 - 科学か迷信か」誠信書房（1986）
5. Francoise Gauquelin “Psychology of the planets” Astro Computing Services（1982）
6. 伊勢田哲治「擬似科学と科学の哲学」名古屋大学出版会（2003）
7. スチュアート・A・ヴァイス「人はなぜ迷信を信じるのか - 思いこみの心理学」朝日新聞社（1999）
8. 石川文康「カントはこう考えた - 人はなぜ『なぜ』と問うのか」筑摩書房（1998）
9. 浅野智彦「自己への物語論的接近」勁草書房（2001）
10. 片桐雅隆「過去と記憶の社会学 - 自己論からの展開」世界思想社（2003）
11. 宅摩武俊・天羽幸子・安藤寿康「ふたごの研究」ブレーン出版（2001）
12. 秋山さと子「ユングの性格分析」講談社現代新書（1988）
13. J.ハントリー「西洋占星術 - 星が教える性格と人生」河出書房新社（1996）
14. 岡本翔子「心理占星学入門」芙蓉社（2000）
15. リズ・グリーン「占星学」青土社（2000）
16. Bil Tierney “All around the zodiac” Llewellyn（2001）
17. S.J.テスラー「西洋占星術の歴史」恒星社厚生閣（1997）
18. 矢島文夫「占星術の起源」ちくま学芸文庫（2000）
19. マルクス・マニリウス「占星術または天の聖なる学」白水社（1993）
20. Olivia Barclay “Horary Astrology Rediscovered” Whitford Press（1990）
21. Kevin Burk “Astrology: A Comprehensive Guide to Classical Interpretation” Llewellyn（2001）
22. Liz Greene “Astrology for lovers” Weiser（1989）
23. Noel Tyl “Astrology and personality” Llewellyn（1974）
24. Noel Tyl “The creative astrologer” Llewellyn（2000）
25. Glenn Perry “An Introduction to astro psychology” Association for astrological psychology (AAP)（1998）
26. G. Perry “Essays on psychological astrology” AAP（1998）
27. Tracy Marks “The art of chart interpretation” CRCS（1986）
28. Donna Cunningham “How to read your astrological chart” WEISER（1999）
29. Sue Tompkins “Aspects in astrology” DESTINY Books（2002）
30. Carol Rushman “The art of predictive astrology” Llewellyn（2002）
31. Sasha Fenton “Predicting the future with astrology” STERLING（1997）
32. John Townley “Composite Charts” Llewellyn（2000）

参考 URL (2004 年 7 月 19 日現在)

細密占星術

<http://astro.isic.co.jp/fortune/index.html>

@nity FORTUNE 占いフォーラム

<http://forum.nifty.com/ffortune/>

古典占星術全講

http://www01.vaio.ne.jp/wizard/wizard/lcastrology/lcastrology_f.htm

Project Hindsight

<http://www.projecthindsight.com/>

Archive for the Retrieval of
Historical Astological Texts

<http://www.robhand.com/>

インド占星塾

<http://www.asc-21.com/index.html>

東西占星術研究所

<http://www.interq.or.jp/mars/tozai/>

Café Astology

<http://www.cafeastrology.com/>

Astrodienst

<http://www.astro.com/>

Astrology on the Web

<http://www.astrologycom.com/>

Moon Valley Astrologer

<http://celestial.bizland.com/>

Astrology X-file Cabinet

<http://www.astrology-x-files.com/>

Studies on Astrology

<http://www.skepsis.no/english/subject/astrology/studies.html>

The Scientific Exploration of Astrology

<http://www.astrology-and-science.com/>

Rudhyar Archival Project

<http://www.khaldea.com/rudhyar/>

Association for Psychological Astrology

<http://www.aaperry.com/>

The Center for Psychological Astrology

<http://www.astrologer.com/cpa/>

The Astrological Association of Great
Britain

<http://www.astrologicalassociation.com/>

Astrolog Homepage

<http://www.magitech.com/~cruiser1/astrolog.htm>

「萌えない占星術 もえません」

著者：猿元

発行：MFRI

(<http://www.puni.net/~aniki/>)

2004 年 8 月 15 日 初版
